

# SEIG LIB-NEWS

2020年3月18日発行  
聖学院中学校・高等学校  
図書委員会

## ● 読書の春！

図書館では、終業式を終えた生徒に1人10冊、本を貸出します。予定外の長い春休み、「新しい自分」を見つけるきっかけとして、ふだん手にしない本を選んでみてください。

※返却期限は4月最初の登校日です。

## ● 読書王、表彰！

2019年度の最多貸出生徒を「読書王」として表彰します。受賞生徒には、表彰状と副賞として図書館スタッフのおすすめ本2冊にサイン入りでプレゼントします。

みなさんも、読書王を2020年度の学校生活の目標に加えてみてはいかがでしょうか？

### ★2019年度読書王

高校の部 Ⅲ年D組 小作龍平 君 92冊

中学の部 2年C組 齋藤 格 君 178冊

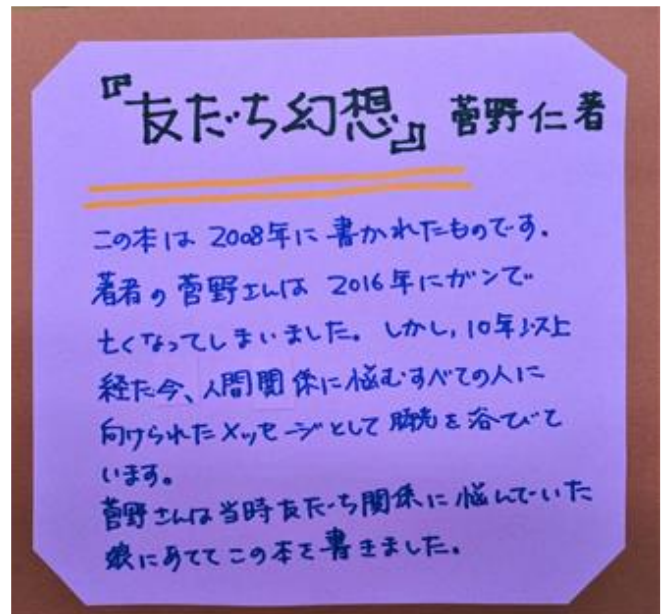
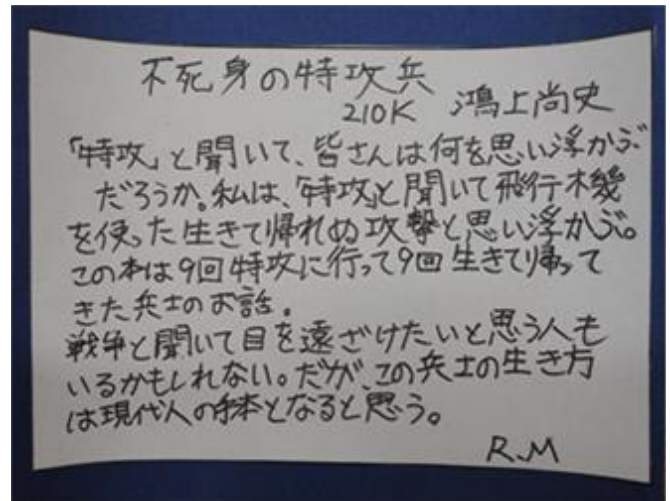
### ★図書館スタッフからプレゼントした2冊

#### 鴻上尚史 「不死身の特攻隊」

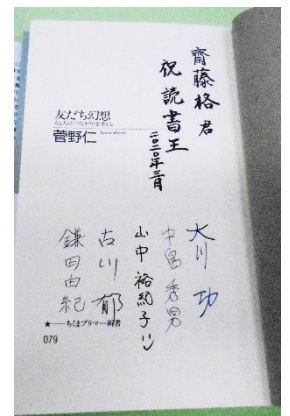
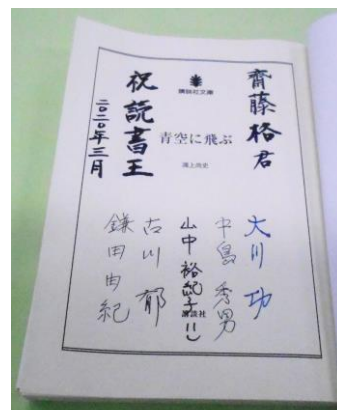
上官の命令に抵抗し、決して特攻せず、引き返すことを繰り返した旧特攻隊パイロットの実話。

#### 菅野 仁 「友だち幻想」

「友だち」という逃れられないパワーワードを、あえて一步引いた視点から捉え直した新書。



### ★5人のサインの写真



## ◎教職員のリレーエッセイ◎ 第77回

事務局 情報担当 塩川 祐司さん

### 私にとって本とは

私は本が好きです。買い物に出かけると必ず本屋に立ち寄り、本屋を見かけると必ずふらふらと入ってしまいます。

小さい頃は今みたいにインターネットやケータイ、スマホが普及していなかったため、情報を得る手段として、テレビ、ラジオ、新聞、本、身近な人から見聞きした情報が全てでした。家のルールで、テレビは30分だけ、漫画は買ってもらえませんでした。小学校の頃は、曜日ごとに本屋に行き、週刊ジャンプ、マガジン、サンデーなどを、中学生、高校生に混じって立ち読みしていました。サッカーをしていた私は『キャプテン翼』という漫画が大好きで、毎週月曜日に発行されるジャンプを楽しみにしていました。漫画は買ってもらえませんでした。本は買ってもらえたので、大好きな推理小説や歴史小説をたくさん読みました。推理小説はコナンドイルのシャーロックホームズを、よく読んでいました。本の題名がいつも謎めいていて、例えば『まだらの紐』は、なんのことだろう…とワクワクしながら読み進めていました。また、『ズッコケ三人組』、『大どろぼうホッツェンプロッツ』、明智小五郎などなど、どれも思いがけない展開にあっと驚かされる本でした。中学、高校の頃によく読んだ本は星新一でした。短編集で読みやすく、ちょっと大人の雰囲気があり、またストーリーの終わり方に皮肉や意外性があり、考えさせられることもありました。少年期の本との出会いは退屈な日常から、自分が知らない新しい世界へ誘ってくれるものだったのだらうと思います。

大学時代には、何かしら自分の考え方を確立したいと考えていたので、経済学の理論を理解するために色々な本を読みましたが、すぐに理解できるものでもなく、疑問ばかり膨らんでいきました。経済学部で習得できるものは「経済学的思考」といわれていましたが、その思考法を身に付けて卒業できたとは思えませんでした。しかし、社会人になり仕事で失敗する状況になる時、経済学的思考が出てくるようになりました。「サunkコスト」とは過去の損失は取り戻せない、だから常に現時点から考えられる良い選択をしていく、というものです。失敗から学ぶことは大切なことですが、過去に囚われず、現時点から常に良い手はないかと考えるきっかけになっています。そう考えると本との出会いは人生の様々な選択にとっても影響を与えるものだと思います。

### 情報のお仕事

学校事務における情報のお仕事とは、教職員の通信ネットワークシステムの管理、入試結果のデータ管理、高Ⅲの調査書発行に伴う教務部門のシステム管理と、多岐に渡ります。先生とのミーティングでは、相手が何を求めているのか、その言葉の奥にある思いを感じ取り、それに応じた提案をすることもあります。そんな塩川さんが最も重視しているのはコミュニケーション能力。「パソコンが叩けるようになる前に、五感を使うこと、人の話を聞く力を養うことが肝心です」。

社会人1年目、人差し指でキーボードを押していたところから、プログラマーとして、顧客の要望に合わせた製品を作り上げるようになった人ならではの実感伝わってきました。